

食品に関するリスクコミュニケーション

ー我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(自ら評価)についてー

○ 開催日

平成21年12月15日(火)14:00-16:00 大阪科学技術センター(大阪)

平成21年12月18日(金)14:00-16:00 星陵会館(東京)

○ 参加者(消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等) *関係者除く

大阪会場 39名(一般:36名 マスコミ:3名)

東京会場 83名(一般:77名 マスコミ:6名)

○ 概要

(1)講演

我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価のプリオン専門調査会
における審議結果(案)について

大阪会場: 山本 茂貴 (食品安全委員会プリオン専門調査会専門委員
国立医薬品食品衛生研究所食品衛生管理部長)

東京会場: 吉川 泰弘 (食品安全委員会プリオン専門調査会座長
東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

(2)会場参加者との意見交換

<登壇者>

大阪会場: 山本 茂貴、 見上 彪 (食品安全委員会委員長代理)

東京会場: 吉川 泰弘、 小泉 直子 (食品安全委員会委員長)

○ 主な意見等

(1) リスク評価の方法について

- ・ 牛肉輸出国での飼料規制、食肉処理についての、回答書の真正性をどう確認したのか。
- ・ リスク評価の審議をする際に、国ごとの優先順位はあったのか。
- ・ OIE(国際獣疫事務局)の国際的評価とこのたびの食品安全委員会の評価との関係はどのようなものか。

(2) リスク評価結果について

- ・ 評価書文案の中の、「リスクがないとは言えないが、相当程度低いと考えられる」という表現はわかりにくい。
- ・ 日本のリスク評価結果を海外に発信し、情報を国際的に共有することは有意義である。

(3) プリオン、BSEについて

- ・ 異常プリオンたん白質は、どこまで解明されたか。
- ・ BSE牛(通常食べる骨格筋の部分)を試験動物に食べさせて発病させた実験例はあるか。
- ・ 非定型BSEの起源で推測されるものは何か。
- ・ 非定型L型のヒトでの発生頻度はどの程度か。

(4) 今後の予定について

- ・ リスク評価された8カ国以外の7カ国の評価はいつ頃まとまる予定か。

食品に関するリスクコミュニケーション(大阪)
ー我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(自ら評価)についてー
アンケート集計結果

開催日：2009年12月15日(火)

以下の設問についてそれぞれあてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください。

Q1-① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	19	67.9%
2. 女性	9	32.1%
無回答	0	0.0%
合計	28	100.0%

Q1-② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	1	3.6%
3. 30歳代	4	14.3%
4. 40歳代	8	28.6%
5. 50歳代	6	21.4%
6. 60歳代	6	21.4%
7. 70歳以上	3	10.7%
無回答	0	0.0%
合計	28	100.0%

Q1-③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	8	28.6%
2. 主婦、学生、無職	5	17.9%
3. 畜産関係生産者	0	0.0%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 農業・畜産・水産以外の生産者	0	0.0%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	5	17.9%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	0	0.0%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	9	32.1%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	0	0.0%
10. その他	1	3.6%
無回答	0	0.0%
合計	28	100.0%

その他

化粧品の製造販売

Q1-④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	3	10.7%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	4	14.3%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	10	35.7%
4. 関係団体からのご案内資料	6	21.4%
5. 知人からの紹介	4	14.3%
6. その他	1	3.6%
無回答	0	0.0%
合計	28	100.0%

その他

品管部署からの提案

Q1-⑤ 食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか

回答内容	件数	割合
1. はじめて	12	42.9%
2. 2回目	8	28.6%
3. 3回目	2	7.1%
4. 4回目	2	7.1%
5. 5回以上	4	14.3%
無回答	0	0.0%
合計	28	100.0%

Q1-⑥ 国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんな食リスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されてあなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか。

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	21	75.0%
2. ややそう思う	5	17.9%
3. あまりそう思わない	1	3.6%
4. 全くそう思わない	0	0.0%
5. わからない	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

Q2-① 本日の意見交換会に参加された目的

回答内容	件数	割合
1. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓について、疑問に思うことがあったから。	1	3.6%
2. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の安全性評価の経緯・内容について、知りたかったから。	14	50.0%
3. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に対して、どのような施策がとられるのか知りたかったから。	5	17.9%
4. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価案に対して意見を提出するために情報を得たかったから。	0	0.0%
5. 他の参加者の考えや意見を聞きたかったから。	2	7.1%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	3	10.7%
無回答	3	10.7%
合計	28	

Q2-② 質問①でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるもの

回答内容	件数	割合
1. 充分満足した	2	7.1%
2. ほぼ満足した	17	60.7%
3. あまり満足できなかった	4	14.3%
4. まったく満足できなかった	0	0.0%
5. どちらでもない	0	0.0%
無回答	5	17.9%
合計	28	

Q2-③ “あまり満足できなかった”“まったく満足できなかった”“どちらでもない”と答えた方に伺います。本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

ここまで、相手国の回答を精査、確認した、ということを示して欲しかった。
イメージ的に抽象的な評価であり、逆にわかりづらい面がある
消費者の安全の評価と食品安全委員会の健康安全評価の違い

Q2-④ 本日の意見交換会の進め方について伺います。
会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせください。

a. 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	2	7.1%
2. 適切だった	21	60.7%
3. あまり適切ではない	4	28.6%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

b. 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	2	7.1%
2. 適切だった	21	75.0%
3. あまり適切ではない	4	14.3%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

c. 配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	2	7.1%
2. わかりやすかった	17	60.7%
3. わかりにくかった	8	28.6%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

d. 講演内容

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	3	10.7%
2. わかりやすかった	21	75.0%
3. わかりにくかった	3	10.7%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

e. 会場参加者との意見交換

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	2	7.1%
2. わかりやすかった	18	64.3%
3. わかりにくかった	4	14.3%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	4	14.3%
合計	28	100.0%

f. 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	1	3.6%
2. おおむね評価する	22	78.6%
3. あまり評価しない	4	14.3%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

Q3-① 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価について、理解できましたか。

回答内容	件数	割合
1. よくわかった	3	10.7%
2. ほぼわかった	22	78.6%
3. わかりにくかった	2	7.1%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	1	3.6%
合計	28	100.0%

Q3-② 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価についての疑問が解消されましたか。

回答内容	件数	割合
1. 十分解消された	3	10.7%
2. だいたい解消された	13	46.4%
3. まだ解消できていないところがある	10	35.7%
4. 全く解消されなかった	0	0.0%
無回答	2	7.1%
合計	28	100.0%

Q4 今日の意見交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この意見交換会で明確になりましたか？

回答内容	件数	割合
1. とても明確になった	4	14.3%
2. ほぼ明確になった	14	50.0%
3. 明確にはならなかった	4	14.3%
4. さらにわからなくなった	1	3.6%
5. 疑問に思うことや質問はなかった	3	10.7%
6. その他	0	0.0%
無回答	2	7.1%
合計	28	100.0%

Q5 今日の意見交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなありましたら、お書きください。

BSE検査の将来が聞きたい。全頭検査続けるのか
国内での消費者啓発により力を注いで欲しい。国民は何か不安。なぜ全頭検査かを知らない
検査方法等についてもっとくわしく知りたかった
食品安全委員会と今回新しくスタートした消費者庁との関係はどうなるのでしょうか。
要請機関を知りたかった
本日はありがとうございました。講演がわかりやすかったです。スライドの字が小さく配布資料は白黒であったので今後改善される事を望みます
あまり相手国のデータへの信頼性に疑問

Q6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものがあれば全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること)	13	46.4%
2. 食品安全委員会ホームページ(http://www.fsc.go.jp)	24	85.7%
3. 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	11	39.3%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	19	67.9%
5. 食品安全モニター制度	6	21.4%
6. 季刊誌『食品安全』	13	46.4%
7. 食品の安全性に関する用語集	8	28.6%
8. 食品の安全性に関する政府広報	4	14.3%
9. その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	98	

Q7 上記で選択したものを含め、会全体を通してご意見やご感想がございましたらご記入ください。

一般の消費者の立場から見ると大変難しい表現で、理解しにくいところが多い。もっとやさしく解り安い文字、表現でマンガティックにならないのでしょうか。
自ら評価ご苦勞様でした
リスコミの方法については、中・高・大学生など、日本の未来をになう、そしてある程度理解力のある年齢層を対象に、学校組織を利用(活用)して行なってもいいのではないかと。
初めての参加で、食品安全委員会の全体像が、つかみきれないのですが、今回の会に限れば、非常に面白かったというのが主な印象です。特に輸入牛肉は毎日の生活の中で加工品等の形で好むと好まざるとにかかわらず体内に入ってくるものだとして理解しています。そういう感覚の中で、もっと知りたいという気持ちになりました
食品安全委員会は消費者の立場も考えて、健康安全評価をしてほしい。頼りにしていましたが当てがはずれた点があると思います。
これからもいろんなテーマで「食品に関するリスクコミュニケーション」を開催してください
中国、韓国の評価が出た時にまたリスコミに来たい

食品に関するリスクコミュニケーション(東京)
ー我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に係る食品健康影響評価(自ら評価)についてー
アンケート集計結果

開催日:2009年12月18日(金)

以下の設問についてそれぞれあてはまるものを1つ選んで番号を○で囲んでください。

Q1-① 性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	35	74.5%
2. 女性	12	25.5%
無回答	0	0.0%
合 計	47	100.0%

Q1-② 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	5	10.6%
3. 30歳代	3	6.4%
4. 40歳代	12	25.5%
5. 50歳代	15	31.9%
6. 60歳代	9	19.1%
7. 70歳以上	3	6.4%
無回答	0	0.0%
合 計	47	100.0%

Q1-③ 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体(生活協同組合関係者 など)	8	17.0%
2. 主婦、学生、無職	4	8.5%
3. 畜産関係生産者	1	2.1%
4. 水産関係生産者	0	0.0%
5. 農業・畜産・水産以外の生産者	0	0.0%
6. 食品関連事業者・団体(加工、流通、販売 など)	24	51.1%
7. マスコミ(新聞記者、カメラマン など)	2	4.3%
8. 行政(自治体職員、独立行政法人等職員 など)	2	4.3%
9. 食品関連研究・教育機関(教員、研究職員 など)	2	4.3%
10. その他	4	8.5%
無回答	0	0.0%
合 計	47	100.0%

その他

在京外国公館
食品衛生コンサルタント
会社員
NPO法人

Q1-④ 本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか

回答内容	件数	割合
1. 食品安全委員会のホームページ	23	48.9%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	3	6.4%
3. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	15	31.9%
4. 関係団体からのご案内資料	3	6.4%
5. 知人からの紹介	1	2.1%
6. その他	2	4.3%
無回答	0	0.0%
合計	47	100.0%

その他

農水省メールマガジン
代理出席

Q1-⑤ 食品安全委員会が実施する意見交換会には、本日で何回目の参加となりますか

回答内容	件数	割合
1. はじめて	14	29.8%
2. 2回目	7	14.9%
3. 3回目	5	10.6%
4. 4回目	0	0.0%
5. 5回以上	21	44.7%
無回答	0	0.0%
合計	47	100.0%

Q1-⑥ 国民の食生活を取り巻く変化や、食の安全に関する国際的な考え方において、どんなリスクがあるという前提で食品行政においてリスク分析手法が導入されてあなたは「100%安全な食品はないこと」について、どう思われますか。

回答内容	件数	割合
1. 強くそう思う	39	83.0%
2. ややそう思う	7	14.9%
3. あまりそう思わない	0	0.0%
4. 全くそう思わない	0	0.0%
5. わからない	0	0.0%
無回答	1	2.1%
合計	47	100.0%

Q2-① 本日の意見交換会に参加された目的

回答内容	件数	割合
1. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓について、疑問に思うことがあったから。	3	6.4%
2. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の安全性評価の経緯・内容について、知りたかったから。	24	51.1%
3. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓に対して、どのような施策がとられるのか知りたかったから。	5	10.6%
4. 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価案に対して意見を提出するために情報を得たかったから。	1	2.1%
5. 他の参加者の考えや意見を聞きたかったから。	7	14.9%
6. 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから。	6	12.8%
無回答	1	2.1%
合計	47	100.0%

Q2-② 質問①でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるもの

回答内容	件数	割合
1. 充分満足した	7	14.9%
2. ほぼ満足した	23	48.9%
3. あまり満足できなかった	4	8.5%
4. まったく満足できなかった	0	0.0%
5. どちらでもない	4	8.5%
無回答	9	19.1%
合計	47	

Q2-③ “あまり満足できなかった”“まったく満足できなかった”“どちらでもない”と答えた方に伺います。本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

活発な意見を募る進行とは思えなかった
会場に机がないこと
弱冠時間が少ないように感じた。
米国からの実体を知りたいと思っていたから、本日評価された国からの輸入量は少量であると思い、国民要求に未たないと思う。大きなマーケットに影響される事の実情を知りたい
各国、独自の意見などを回答していることから信頼性はどうか不明

Q2-④ 本日の意見交換会の進め方について伺います。会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせください。

a. 意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	6	12.8%
2. 適切だった	33	70.2%
3. あまり適切ではない	5	10.6%
4. 全く適切ではない	1	2.1%
無回答	2	4.3%
合計	47	100.0%

b. 開催方法(参加手続き・場所・所要時間)

回答内容	件数	割合
1. とても適切だった	5	10.6%
2. 適切だった	34	72.3%
3. あまり適切ではない	6	12.8%
4. 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	2	4.3%
合計	47	100.0%

c. 配布資料

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	5	10.6%
2. わかりやすかった	38	80.9%
3. わかりにくかった	2	4.3%
4. 全く分からなかった	0	0.0%
無回答	2	4.3%
合計	47	100.0%

d. 講演内容

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	6	12.8%
2. わかりやすかった	34	72.3%
3. わかりにくかった	4	8.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	3	6.4%
合計	47	100.0%

e. 会場参加者との意見交換

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	5	10.6%
2. わかりやすかった	29	61.7%
3. わかりにくかった	2	4.3%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	11	23.4%
合計	47	100.0%

f. 意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1. 評価する	15	31.9%
2. おおむね評価する	25	53.2%
3. あまり評価しない	1	2.1%
4. 全く評価しない	0	0.0%
無回答	6	12.8%
合計	47	100.0%

Q3-① 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価について、理解できましたか。

回答内容	件数	割合
1. よくわかった	12	25.5%
2. ほぼわかった	28	59.6%
3. わかりにくかった	3	6.4%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	4	8.5%
合計	47	100.0%

Q3-② 我が国に輸入される牛肉及び牛内臓の自ら評価についての疑問が解消されましたか。

回答内容	件数	割合
1. 十分解消された	6	12.8%
2. だいたい解消された	29	61.7%
3. まだ解消できていないところがある	7	14.9%
4. 全く解消されなかった	1	2.1%
無回答	4	8.5%
合計	47	100.0%

Q4 今日の見聞交換会に参加される前に疑問に思っておられたことや質問したいことは、この見聞交換会で明確になりましたか？

回答内容	件数	割合
1. とても明確になった	3	6.4%
2. ほぼ明確になった	29	61.7%
3. 明確にはならなかった	4	8.5%
4. さらにわからなくなった	1	2.1%
5. 疑問に思うことや質問はなかった	4	8.5%
6. その他	0	0.0%
無回答	6	12.8%
合計	47	100.0%

Q5 今日の見聞交換会では、説明が足りなかった、もっと聞きたかった、もっと議論すべきだったことなありましたら、お書きください。

連立与党の介入問題(食安委の中立、公正、科学的に対する)
非定型BSEについて
見聞交換では、吉川先生以外、委員長への質問は出なかった。もっと片寄らない方法に持って行くことも必要なのではないかと感じました。(講演内容と委員会への質問とわけでも)
BSEプリオンがウィルスや微生物以上に怖いものという一般国民の感想は何故解消されないのか不可解です。そのところをキッチリと説明されてはいかがでしょう。
BSEの牛及び人が感染した場合の特効薬の開発状況について知りたかった。病気も未前に防ぐ対策が一番重要だと考えるが、もしもの時の対応も十分に検討した方が良いと思う。機械的回収肉にも、トレーサビリティは必要ではないかと思うが、この辺りの議論、検討も今後行ってもらいたい。
米国カナダの食肉事情、内臓事情を取り入れてほしかった。
非定型のBSEリスクがあるのであれば現非発生国とされている国で、SRMを加工食品としてとっている国(NZ・オースト)があるが、これに対してはリスクがあるのではないか
輸入肉すべての国について、再度評価して下さい。
聞き取り内容の信頼性に関する説明をもう少ししていただけると良かったのではないか。

Q6 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものがあれば全て選んで、○をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと(原則公開されていること)	33	70.2%
2. 食品安全委員会ホームページ(http://www.fsc.go.jp)	41	87.2%
3. 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	24	51.1%
4. 食品安全委員会メールマガジン(e-マガジン)	29	61.7%
5. 食品安全モニター制度	24	51.1%
6. 季刊誌『食品安全』	26	55.3%
7. 食品の安全性に関する用語集	25	53.2%
8. 食品の安全性に関する政府広報	14	29.8%
9. その他	3	6.4%
無回答	3	6.4%
合計	222	

Q7

上記で選択したものを含め、会全体を通してご意見や感想がございましたらご記入ください。

科学的に食品に関するリスク評価をするというスタンスが周知され、消費者庁側がデータ等を適切に利用して、消費者を守っていただけると期待しています。

先日発表になった食品安全モニターを対象とした、食に関するアンケート結果を見ました。アンケート自体、どのように設計されたのでしょうか。回答項目には『安全でないと思う』といった内容が先行しており回答者はそちらに丸をつける傾向が如実に出ていたと思います。

しかも、結果として、食品安全モニターが食品安全委員会が安全であると示している食品等に関して「不安・安全でない」といった回答を示していることに対してどのようにお考えなのでしょうか。これでは国民とのPAや様々な食品の普及や技術開発について立ち遅れていくばかりだと思います。

今回参加してあらためて思いましたが、一般の人々には難解だということです。「BSEプリオン」って何かを、また一からPRすることが大事ではないでしょうか。

科学的な知見を積み上げる機関としての存在意義を高めて欲しい。時々の食品に係る健康問題についてタイムリーに対応する(科学的な根拠に基づくコメントを行う)役所であって欲しい。

進行の方が早口で聞きとれないところがありました。

意見交換会での聴講者側の質問が集約され過ぎて自身の意見が取り上げられなかったので、十分配慮するやり方を今後期待したい。

以前参加した意見交換でも思いましたが場所が分かりにくく、できれば参加してほしいと思っているのでは！と感じた

評価書は科学的に誤解のないよう書かれておれば、一般向けの書きものはわかりやすさを優先させて書いてもよいのではないか。正確を期すことに力を入れれば、表現はむずかしいのは常である。

参加証のハガキがもう少し早く届くようお願いしたい。